

令和6年4月30日

大鹿村長 熊谷英俊 様

## 大鹿村農業施策等に関する意見書

大鹿村農業委員会

会長 森下敏彦

日頃から、当農業委員会への格別なご支援、ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

近年、農業を取り巻く環境は、農業者の高齢化・後継者不足、遊休農地の増加、近年発生する豪雨災害などの気象災害の頻発化、さらにはコロナ禍がもたらした消費形態の変化や国際情勢の急激な変化に伴う農業資材価格高騰など、農業者にとって厳しい状況が続いています。

このような状況の中、国は農業経営基盤強化促進法を改正し、人・農地プランは地域農業経営基盤強化促進計画（以下、地域計画）として法定化され、農業の諸問題解決に向けて活動が展開されているところです。

当委員会では、この地域計画策定のたたき台となる目標地図の素案作成に向けて、アンケートや農業者との意見交換会を実施したところ、農業者から様々な意見や要望が寄せられました。また、農業者との意見交換会を通じ得た、地域農業の実情や農地利用の内容を踏まえ、検討を重ねた結果、農地等の利用の最適化を効率的かつ効果的に実施し、より一層の大鹿村の農業振興を図るため、農業委員会等に関する法律第 38 条の規定により、次のとおり意見書として提出いたします。要望内容の施策立案・実施や関係予算の確保等についてご検討いただきますようお願い申し上げます。

## 【1 農業用井水について】

村農業においては、稲作が主要作物となっており、また、水の確保は農業のどの分野においても死活問題でもある。地理的条件から、大鹿村は、河川から取水している農業用井水が多いが、近年ゲリラ豪雨など気象災害により河川の急激な増水やそれに伴って川の流れが大きく変化するなど、取水に支障をきたす事態が頻発化しており、井水組合等管理する農業者にとって大きな負担となっている。また、農地の集積・集約化が進む一方で、農業者数は減少一途をたどり、個人負担は増加している現状にある。農業の安定した経営を図るため、農業用井水に関する支援策の拡充について検討されたい。

## 【2 労働力確保に向けて】

人口減少や高齢化により、農業分野に限らず人手不足は深刻な問題となっている。加えて、村内での人材は限られており、人材の取り合いをしているのが散見される。

については、人材バンクの創設など、労働力確保を目的とした制度並びにその制度を利用するにあたっての支援策を講じられたい。

## 【3 地産地消促進に向けて】

生産性の高い優良な農地であっても、後継者がおらず、現耕作者が引退を考えている農地がいくつか出てきている。これら農地を、市民農園やレンタル農園などといった形での利活用を図り、非農家の耕作へのきっかけづくりや生きがいづくりとして、また、地産地消につながるよう検討されたい。

## 【4 担い手確保に向けて】

今後、担い手や新規就農者の育成・確保するにあたって、村としての農業経営体の営農スタイルを確立する必要がある。また、その営農スタイルは、「稼げる農業」として確立する必要がある。また、村として何を振興するか検討されるとともに、それに伴った支援策を講じられたい。